

ポスト・コロナの学校教育(3)
COVID-19をどのように
教材化するか？

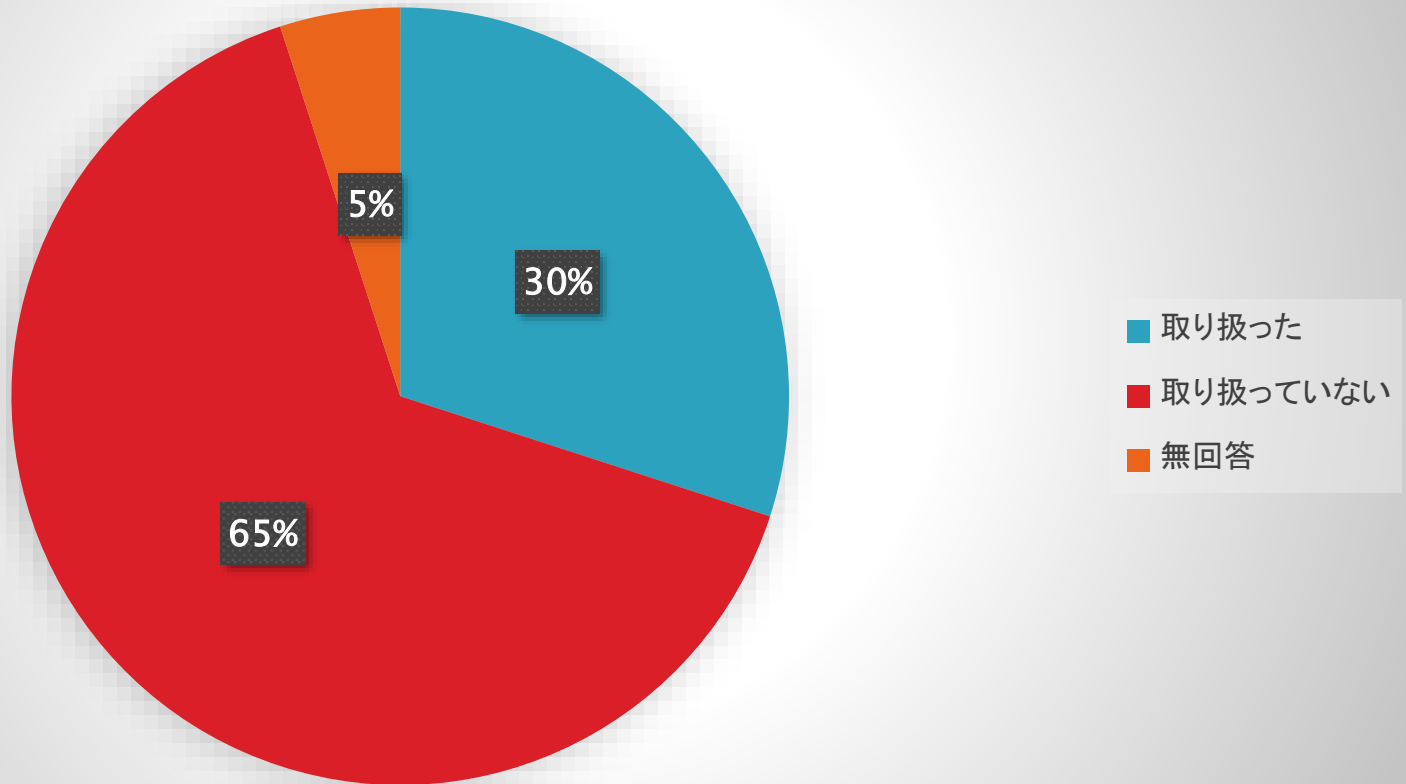
2020年9月26日 14:00-15:30

事前アンケート (N=50)

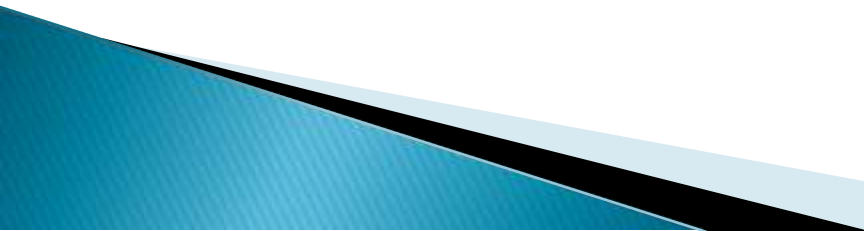
- ▶ COVID-19を学校で取り扱ったことがありますか？
- ▶ COVID-19について学校で取り扱ったことがあるといった場合、どこに難しさを感じましたか？
- ▶ COVID-19について学校で取り扱ったことがあるとすれば、どのような場面でしたか？

COVID-19を取り上げた経験

学校での取り扱い



取り扱った場面

- ▶ 授業の中で取り扱った...5名
 - ▶ 授業外で取り扱った...4名
 - ▶ その他・無回答...3名
- 

どこに難しさがあるのか？

1. 情報更新が早い, 「正確」な情報が分からない
「専門家の中でも結論が出ていない、現在進行系で進む問題であること」
2. 教師自身の専門性
「医学の知識がないので、何が正確な情報かわからない。」
3. カリキュラム上の位置づけ
「時数カウントやねらい、継続性など」
4. 子どもの考え方, 偏見や差別への対応
「児童が家庭で得た知識とのギャップへの配慮、差別や偏見がすでにある場合の対応、感性対策に対して児童が前向きな気持ちになるような指導」

「リスク社会」におけるジレンマ(ベック, 2011)

・「非知(既存の科学的知見では解決が困難な問題)」領域, 問題解決が困難



・「個人化」, 「自己責任論」

教師自身の責任も問われるリスクがある！
受けた子どもの対応にもリスクがある！

学校の役割とは？
教科のあり方とは？

コロナを扱うことの魅力と難しさ

①リスク対応をめぐる時事問題
＝答えがない，現在進行形

②「みんな」が制約を受ける状況
(当事者問題)

セミナーの問い

子どもたちや社会の状況に敏感に応えたい！
だけど、色々考えないといけないし、リスクもあるように感じている！どうしたらいいの…

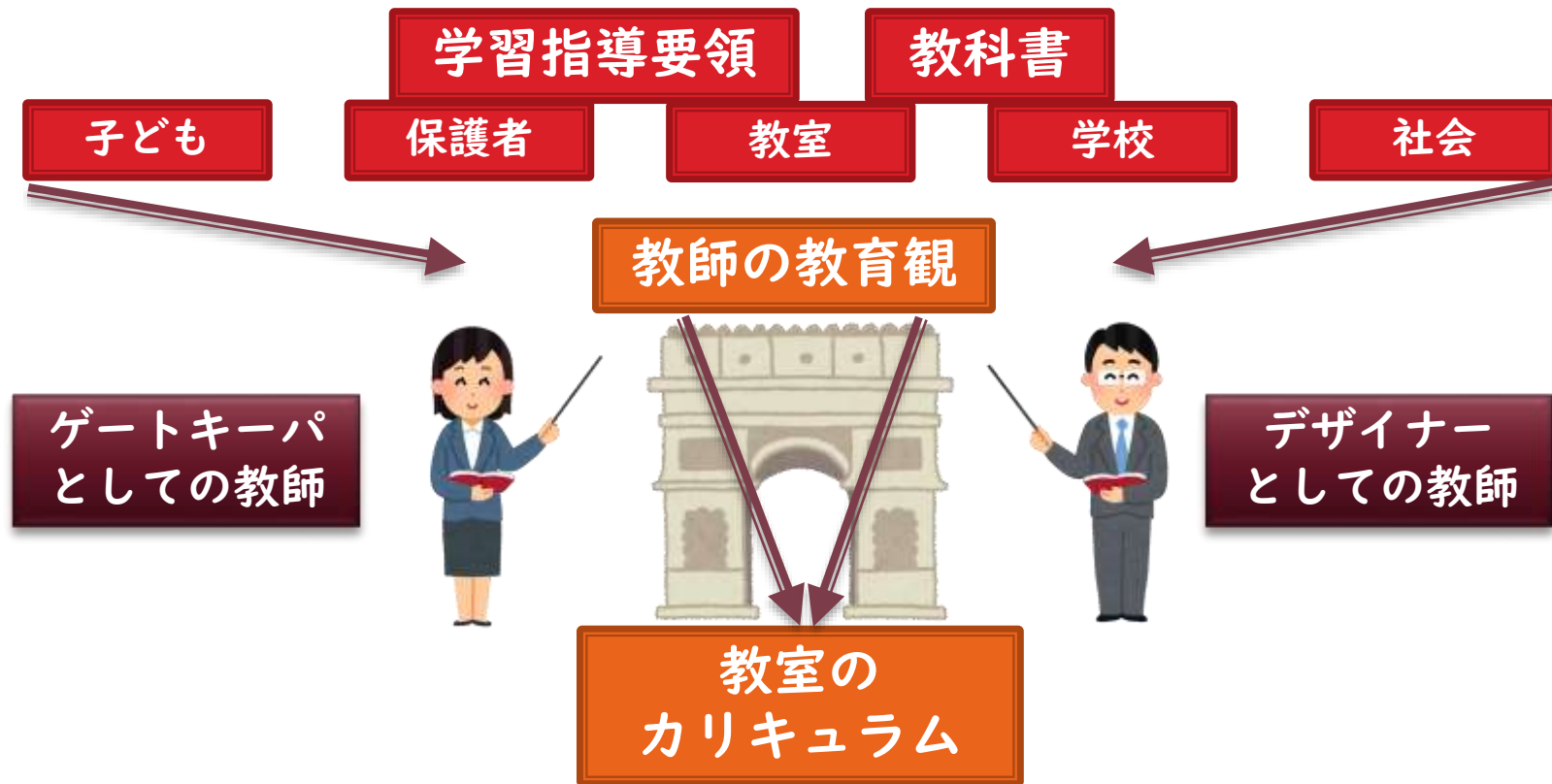


今回、こうしたCOVID-19を教材として取り扱った教師は、どのように扱ったのか？
なぜ、そのような扱い方をしたのか？

(ゲートキーピング)

「ゲートキーピング」とは？

(Thornton, 2005)



教材観

【国からの要請】

学習指導要領・
教科書・副読本・資料集な
どの読み取り

【専門的な文献】

- 概説書（新書など）
- 資史料、地図、データブックなど
- 新聞など

【教師による聞き取り・体験】

- 関係者への聞き取り
- 実地調査

子ども観

【子どもの実態】

- 既有知識の確認
- 学び方の状況

【従来の取組】
学習領域・
教科書・資料集な
どを読み取る

【専門的な文献】

- 概説書（新書など）
- 資史料、地図、データブックなど
- 新聞など

【教師による聞き取り・体験】

- 関係者への聞き取り
- 実地調査

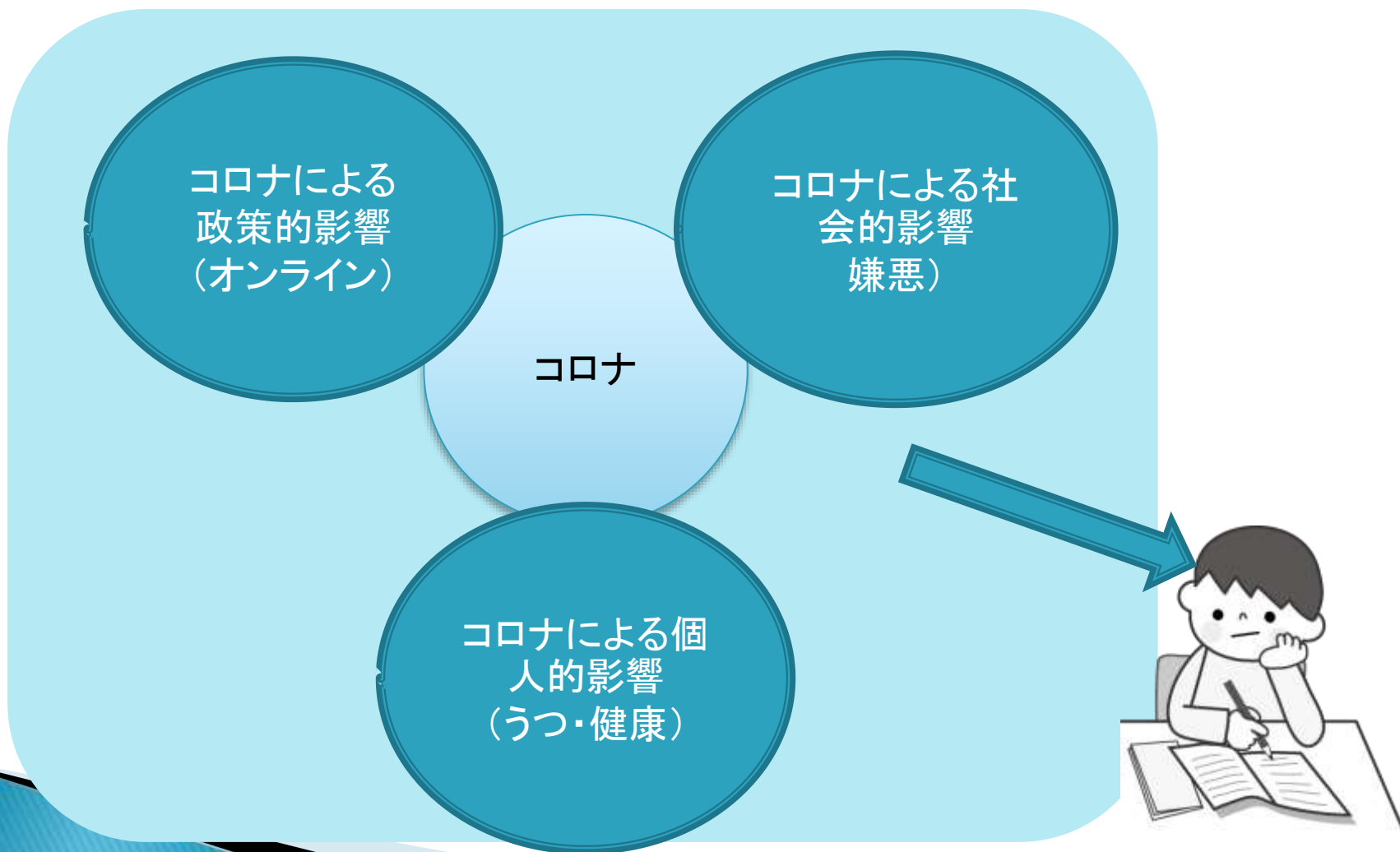
【子どもの実態】

- 既有知識の確認
- 学び方の状況

視点1:教材化とは？

1. 教材＝学習内容
2. 教材＝学習内容と子どもの中間に位置づくもの
3. 教材＝学習内容習得のための素材
(＝教材の物的側面)

視点2:コロナの受け止め方



1. 趣旨説明

2. 実践報告1（佐藤先生）

「保健体育科授業における感染症の取扱と
COVID-19」

3. 実践報告2（行壽先生）

「中学校社会科歴史的分野における「感染症」授業実践」

4. 論点整理（大坂先生・金先生）

5. 質疑応答